

2. 役割分担

九州がんセンター

県内地域拠点病院間の連携調整機能及び国立がんセンターと連携したがん診療情報ネットワーク構成

- ・ 県がん診療連携協議会の運営
- ・ がん登録の推進
 - 地域拠点病院における登録の集約
 - 分析、評価による質の管理
- ・ 緩和ケアの推進
 - 地域共通の緩和ケア依頼書（紹介元と紹介先機関の情報共有シート）の開発普及（別紙1）

九州大学病院

他の3大学病院（福岡大学病院、久留米大学病院、産業医科大学病院）と連携した地域がん診療連携拠点病院に対する診療支援機能

- ・ 大学と共同したがん専門医療従事者（医師、看護師、薬剤師等）の養成（別紙2）
 - 九州がんプロフェッショナル養成プラン
- ・ がん専門医療従事者を対象とした研修（別紙3）
 - 〔 九大病院実績 平成18年度 のべ約4778名
うち地域がん診療連携拠点病院医師 のべ164名 〕
- ・ 地域がん診療連携拠点病院に対するがん診療支援医師の派遣（別紙4）
 - 〔 九大病院実績 4病院 計194名 〕
- ・ 地域がん診療連携拠点病院に対する情報提供、症例相談（別紙5）
- ・ がんに関する臨床研究の推進

福岡県における地域がん診療連携拠点病院の推薦について

本県の地域がん診療連携拠点病院として、下記13病院を推薦する。

病院	更新・新規
北九州市立医療センター	更新
九州厚生年金病院	新規
産業医科大学病院	新規
九州医療センター	新規
済生会福岡総合病院	新規
福岡大学病院	新規
福岡東医療センター	更新
飯塚病院	更新
社会保険田川病院	更新
久留米大学病院	更新
雪の聖母会聖マリア病院	新規
公立八女総合病院	更新
大牟田市立総合病院	更新

1. 選定に係る基本的な考え方

福岡県内在住のがん患者の受療動向を見ると、患者は二次医療圏の範囲を超え、ブロック（北九州、福岡、筑豊、筑後の4圏域）内で受療しており、ブロックを超えた受療は少ないこと、また指定要件を満たす病院がない二次医療圏があることから、選定については、二次医療圏単位を念頭に置きつつ、基本的にはブロック単位という観点で選定する。

選定数については、全国の地域拠点病院の指定状況を見ると、平均して人口約50万人に1ヶ所程度となっていることから、ブロック別に概ね50万人に1ヶ所を目安とし、さらに均てん化を図るため各ブロック内の二次医療圏数も考慮し、結果として下記のとおりとする。

ブロック	人口	二次医療圏数	整備数
北九州	約132万人	2	3
福岡	約236万人	4	4
筑豊	約44万人	3	2
筑後	約94万人	4	4
計	約506万人	13	13

2. 選定

(1) 1次選定（二次医療圏に1病院）

二次医療圏内に、指定要件を満たした病院が1つだけの場合は、その病院を選定する。複数ある場合には、別紙評価項目により各病院を点数評価し、その結果を参考に総合的に判断し、最も評価が高い病院を選定する。

ブロック	二次医療圏	病院
北九州	北九州	北九州市立医療センター
福岡	福岡・糸島	九州医療センター
	粕屋	福岡東医療センター
筑豊	飯塚	飯塚病院
	田川	社会保険田川病院
筑後	久留米	久留米大学病院
	八女・筑後	公立八女総合病院
	有明	大牟田市立総合病院

(2) 2次選定（ブロック単位の整備数に対して不足数を追加）

1次選定の結果、整備数を満たさないブロックについては、上記と同様に行った評価の高い方から順に、不足数分を選定する。（北九州ブロック 残り2、福岡ブロック 残り2、筑後ブロック 残り1）

ブロック	二次医療圏	病院
北九州	北九州	産業医科大学病院
		九州厚生年金病院
福岡	福岡・糸島	福岡大学病院
		済生会福岡総合病院
筑後	久留米	雪の聖母会聖マリア病院

(3) 二次医療圏別割りつけ

推薦する13病院の二次医療圏別の割りつけを下記のとおりとする。ただし、この割りつけは、病院の立地場所等を考慮したものであるが、がん患者の受療動向が二次医療圏内で収まっていないことから、一応の目安とする。

ブロック	二次医療圏	病院
北九州	(遠賀・中間)	産業医科大学病院
	北九州	九州厚生年金病院
		北九州市立医療センター
	京築	
福岡	(糸島)	九州医療センター
	福岡・糸島	済生会福岡総合病院
		福岡大学病院
	筑紫	福岡東医療センター
	粕屋	
	宗像	
筑豊	飯塚	飯塚病院
	直方・鞍手	
	田川	社会保険田川病院
筑後	久留米	雪の聖母会聖マリア病院
		久留米大学病院
	甘木・朝倉	公立八女総合病院
	有明	大牟田市立総合病院

* 北九州医療圏は、北九州市保健所、北九州市医師会と遠賀保健所、遠賀中間医師会よりなる。
福岡・糸島医療圏は、福岡市所管保健所、福岡市医師会と糸島保健所、糸島医師会よりなる。

(別紙)

地域がん診療連携拠点病院選定における評価項目

I 診療体制

1. 診療機能

(1) 診療実績

- ① 年間新入院がん患者数
- ② 年間外来がん患者のべ人数
- ③ 年間悪性腫瘍手術件数(総数、胃・大腸、肺、乳房、子宮、肝・胆・膵)
- ④ 放射線治療のべ人数(2ヶ月間)(体外照射法)
- ⑤ 化学療法のべ人数(2ヶ月間)(総数、胃、大腸、肺、乳房、子宮、肝・胆・膵)

(2) 緩和医療の提供体制

- ① 緩和ケア病棟の有無
- ② 緩和ケア診療実績

(3) 地域医療機関との連携

- ① 地域連携支援病院の指定
- ② 開放型病院
- ③ 紹介患者の受け入れ件数
- ④ 逆紹介の実施件数

2. 診療従事者

(1) 医師

- ① 日本臨床腫瘍学会専門医数
- ② 日本放射線腫瘍学会認定医数
- ③ 日本病理学会病理専門医数

(2) 医師以外

- ① 日本病院薬剤師会がん専門薬剤師数
- ② がん認定看護師数

3. 医療施設

(1) 外来抗がん剤治療室の設置

II 研修体制

1. 研修・カンファレンス開催実績

- ① 対象者・受講者数
- ② 内容

III 情報提供体制

1. 相談支援体制

- ① 専任者数

2. 広報体制(診療、臨床研究)

- ① 提供方法(ホームページ、広報誌、院内掲示等)

3. 院内がん登録

- ① 登録対象(外来・入院)

九州がんセンター

○—地域医療連携による緩和ケアの実施—

「緩和ケア依頼事前情報書(第一報)及び「緩和ケア依頼書」(がん医療地域連携研究会作成)を使用して緩和ケアを依頼した病院リスト及びその患者数

(平成19年6月15日—平成19年10月19日)

市区町村名		依頼先病院名	緩和ケア 依頼事前情報書	緩和ケア依頼書
福岡市	南区	那珂川病院	26	26
		原病院	10	10
		清水クリニック	1	0
		ひのでクリニック	1	0
	東区	たたらリハビリテーション病院	4	4
		原土井病院	6	6
	博多区	木村病院	3	3
	西区	西福岡病院	3	3
		村上華林堂病院	1	1
	中央区	秋本病院	11	11
		及川病院	11	10
	城南区	さくら病院	3	3
早良区	山口内科医院	1	1	
糟屋郡	志免町	栄光病院	6	6
北九州市	八幡東区	新日鉄八幡記念病院	2	2
	八幡西区	九州厚生年金病院	2	2
	小倉北区	聖ヨハネ病院	1	1
久留米市		久留米大学病院	1	0
		聖マリア病院	1	1
田川市		社会保険田川病院	1	0
大牟田市		今野病院	2	2
佐賀県	佐賀市	好生館病院	1	1
	唐津市	河畔病院	1	1
鹿児島県	鹿児島市	相良病院	1	1
長崎県	諫早市	すばる診療所	1	1
4県10市郡		25施設	101(人)	96(人)

○当院から緩和ケア施設に紹介した患者数(平成18年4月—平成19年9月末日) 287名

* 但し、相談支援・情報センターを経由した患者数に限るため、実際にはこれ以上に多いと思われる。

緩和ケア依頼書

病院名 : _____ 先生

患者氏名 : _____ (歳) : 男 : 女 : 入院中 (病棟) : 外来

1. 依頼目的

 : 入院予約 : 外来通院での症状コントロール : 在宅療養 (往診含む)

2. 患者さんに最初に緩和ケアを勧めた人について

 : 患者さん本人が自分で希望 : 家族などからの勧め (配偶者、子供、親戚、両親、友人、その他 ()) : 医療関係者 (医師、看護師、薬剤師、その他の医療者)

3. 緩和ケアを紹介した経緯について (複数選択可 最も強い理由には丸をつける)

 : 治療の効果が期待できなくなったため : 本人が希望するため : 家族が希望するため : 症状コントロールのため : 終末期の看取りのため : その他 ()

4. 現時点での病状について、どこまで説明や告知をしたか

a) 患者さん本人に対して

時期 : 20 年 月頃 (化学療法中、後、放射線療法中、後、手術後) : 癌であることを告知していない : 病名のみ (癌であることのみ) : 転移再発部位や広がりを含めて : 余命を含めて

b) 家族に対して

時期 : 20 年 月頃 (化学療法中、後、放射線療法中、後、手術後)誰に対して行ったか (配偶者、子供、親戚、両親、友人、その他 ()) : 癌であることを告知していない : 病名のみ (癌であることのみ) : 転移再発部位や広がりを含めて : 余命を含めて

5. 上記の病状説明を患者本人と家族とどちらを先にしたか

 : 患者自身が先 : 家族が先 : 患者と家族に同時に

6. 患者さんの臨床的な予後はどれくらいあると考えるか (複数選択可)

 : 6ヶ月以上 : 3ヶ月以上 : 2ヶ月程度 : 1ヶ月程度 : 2週間程度 : 1週間ほど : 1週間以内 : 急変あり

病院名 : _____ 医師名 : _____

緩和ケア依頼事前情報書 (第一報)

病院 _____

相談担当 _____ 様

病院 _____

担当 _____

基本情報

1. 患者名 (イニシャル) _____

2. 年齢 _____ 歳 男・女

3. 住所 _____ 区・町 _____ 丁目

4. キーパーソン 無 有 続柄 _____

5. 保険種類 社保 国保 / (本人・家族)

高齢受給者 (患者負担 _____ 割) 老人保健 (患者負担 _____ 割)

生保 (CW _____) 公費: 乳・障・母・原・その他 (_____)

6. 介護保険 無 有 (要支援 _____ 要介護 _____) 申請中 (_____ 月 _____ 日)

7. 告知内容 本人 (_____)

家族 (_____)

家族構成

日常生活機能 重複記入可 (その場合①が主たるもの②が補助的なもの)。その他は通信欄に記入。

8. 食事 (経口) 自立 一部介助 全面介助

食事内容 常 _____ 分粥 流動 水分のみ 絶飲食

9. 栄養 経管栄養 (経鼻・胃ろう・腸ろう) 高カロリー輸液 (IVH・CVポート)

10. 排泄 自立 一部介助 全面介助 尿管留置 導尿

人工肛門 人工膀胱 その他 (_____)

11. 移動 歩行 杖歩行 歩行器 車椅子 その他 (_____)

12. 清潔 自立 一部介助 全面介助 入浴 シャワー浴 機械浴 清拭

13. 整容 自立 一部介助 全面介助

14. 意思疎通 問題なし 問題あり (筆談・難聴・手話・認知症・せん妄・意識レベルの低下)

特記 (_____)

15. 問題行動 無 有 (認知症・せん妄・その他 _____)

特記 (_____)

16. 疼痛 無 有 部位 (_____) 鎮痛薬使用 (主に _____)

17. 処置 無 有 (_____)

気管切開 (永久・一時的) 吸引頻度 1/ _____ 分・時間

酸素 _____ ℓ/分中

18. 褥瘡マツ 無 有 (_____)

19. 薬管理 自立 ナース・家族等管理

20. 感染症 無 有 (MRSA/部位・その他感染症 _____)

通信欄